



令和3年度

調布市生活支援体制整備事業 報告書

～ 地域支え合い推進員 活動報告書 ～

令和4年8月

調布市福祉健康部高齢者支援室
社会福祉法人 調布市社会福祉協議会

目次

| | |
|--|----|
| この冊子のねらい | 1 |
| 生活支援体制整備事業とは | 2 |
| 1 地域の取組と推進員の関わり（第2層） | |
| 事例1 地域資源の活用を地域住民と考える『空とべ！つつじ』 | 4 |
| 事例2 物産物を通じた“つながり”づくり『北ノ台ふれあい朝市』 | 8 |
| 事例3 高齢者の多い地域で魅力ある街づくり 『にぎわいのある街をつくる会』 | 12 |
| 事例4 企業の地域貢献活動と連携した取組『シニア向けスマホ講座』 | 16 |
| 2 市全域的な活動（第1層） | |
| ● セカンドライフ応援キャンペーン | 20 |
| ● 調布deステイローカル 常設通いの場スタートアップ事業補助金 | 21 |
| ● つながり創出による高齢者の健康増進プロジェクト ～CDC（調布・デジタル・長寿）運動～ | 22 |
| 3 総括 | |
| 結びに | 23 |
| 【資料編】 | |
| 第1層・第2層地域支え合い推進員活動件数等 | 24 |
| ○問い合わせ先 | 29 |

つながろう、みんなの輪

縁 ⇄ 円

みんなができることを持ち寄って「自分ごと」として、いつまでも生きがいや尊厳を持って暮らせるような我がまち調布をつくりませんか？

地域支え合い推進員※（生活支援コーディネーター）がそのお手伝いをします。

この冊子では、令和3年度に推進員が関わった地域活動から、いくつかの例をピックアップしてご紹介します。これから、地域活動に参加したいと思っている人や、現在活動している人の「気づき」のきっかけになればと考えます。

※地域支え合い推進員とは・・・高齢者のニーズと、ボランティアや地域住民などの互助的な地域資源をマッチングさせることにより、生活支援を充実させる役割を持つ。具体的には、不足しているサービスの開発やサービス提供のための体制作りなどを行う。



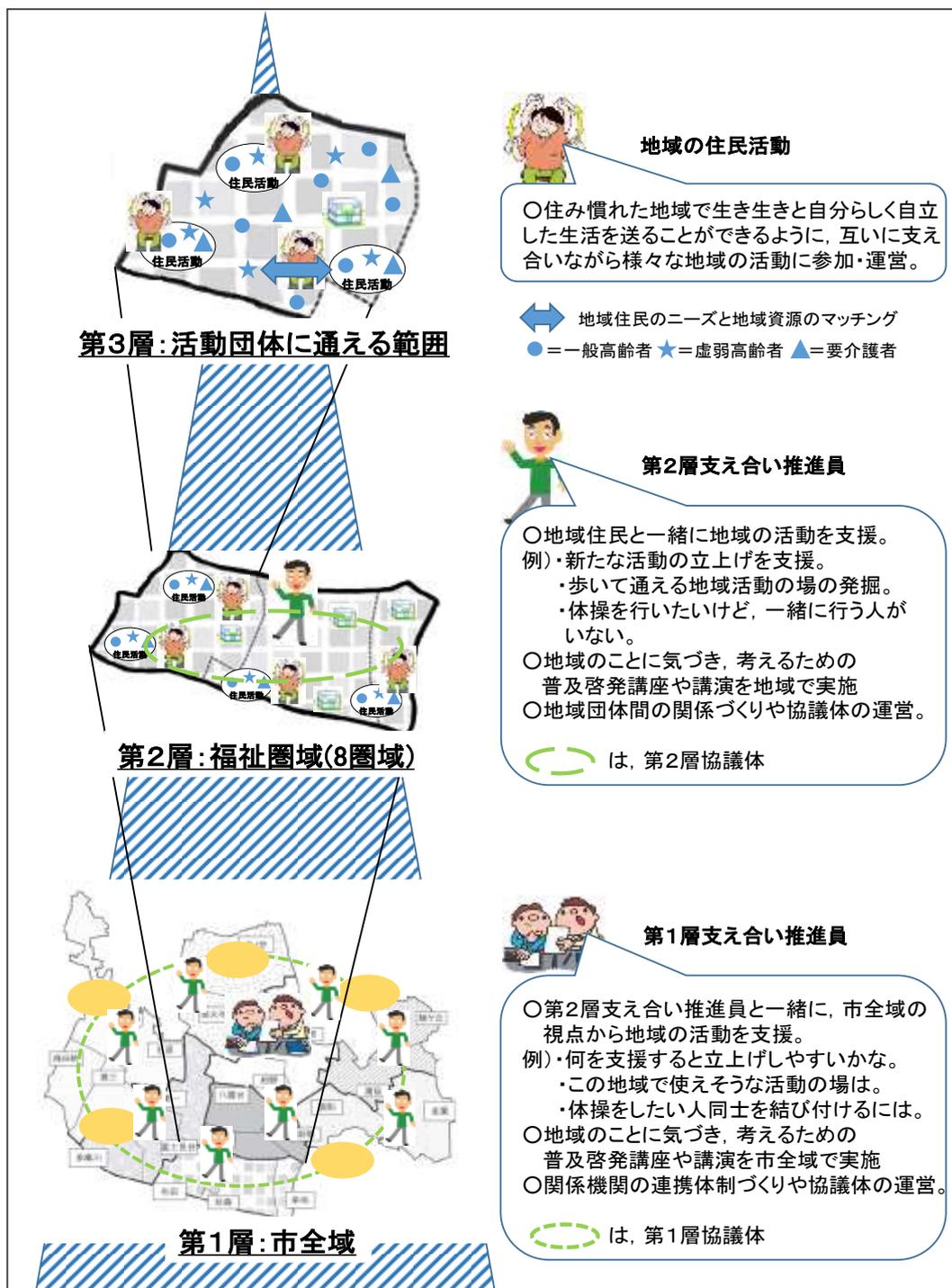
生活支援体制整備事業とは

少子高齢化が進展するなか、高齢者が生きがいを持ちながら住み慣れた地域で自分らしい生活をするためには、地域とのつながりや見守り、支え合いが必要です。

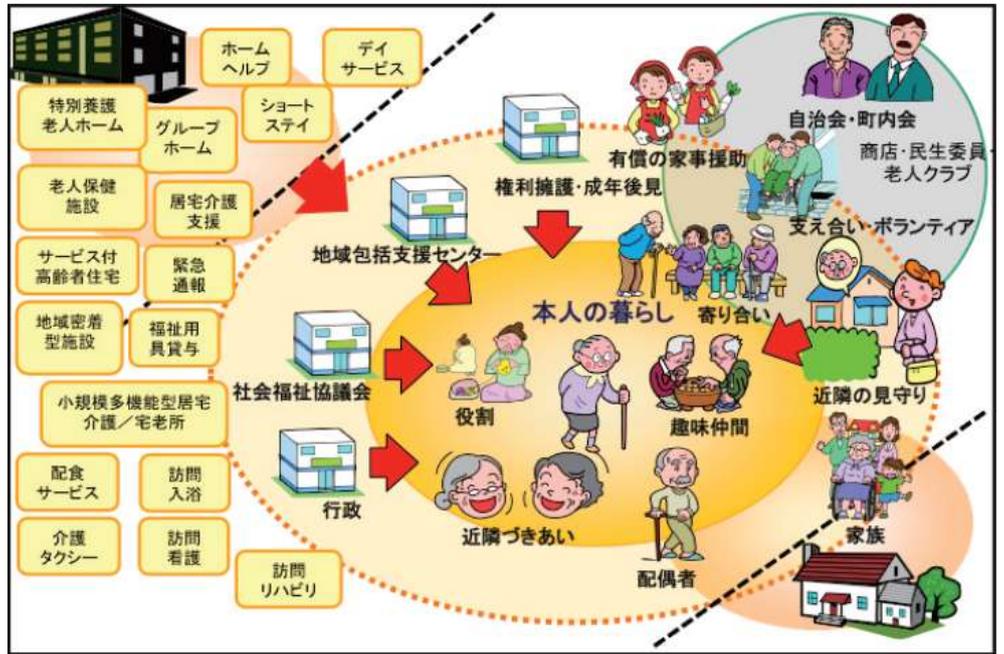
そのようななか、地域住民が主体となった生活支援・介護予防が図れるよう、地域支え合い推進員と地域住民や専門職・行政と一緒に学び、考え、工夫しながら地域づくりの推進をサポートする事業を言います。

調布市では平成27年4月に開始され、平成29年4月からは第1層（市全域）の地域支え合い推進員を高齢者支援室職員、第2層（福祉圏域）を調布市社会福祉協議会に委託して事業展開しています。

○生活支援体制整備事業のイメージ図



地域支え合い推進員は右図の矢印をつなぐ役割を担っています。推進員は、住民が住み慣れた地域でいつまでも暮らし続けられるよう、地域住民の主体的な活動を応援したり、住民や関係機関と一緒に地域づくりを推進する「つなぐ専門職」です



○地域支え合い推進員の活動イメージ図

地域にアウトリーチ[※]します



自治会や地区協議会、ひだまりサロンなど、人が集う場に参加しています。地域の情報を共有していく中で、「実は…」と相談を受けることがあります。

移動は基本、自転車です！



活動の立ち上げ・運営のお手伝い



活動を続けていくために必要な情報を提供したり、悩みごとの相談を受けたりします。

お話を伺います



「こんな活動をしたい」、「こんなことで困っている」など、皆さんの思いをお聞きします。

一緒に考え。思いを形に



住民や関係機関、様々な団体と協力して、それぞれのできることを持ち寄り話し合います。

※アウトリーチ

窓口で待つのではなく、訪問すること

地域資源の活用を地域住民と考える 事例Ⅰ 『空とべ!つつじ』

滝坂・緑ヶ丘
エリア

地域支え合い推進員：高杉

概要

- 公的資源が少ない地域の中で、地域住民の集いの場や住民主体の活動、社会福祉協議会、3つの地域包括支援センター、公益財団法人、医療法人が協働し、チーム「コミプロつつじ」を結成。
- 地域住民の想いを集め、地域の集いの場や住民主体の活動が生まれることを目指し、1年間かけて協議体などを重ねた。その結果、令和4年3月に「ふらっと来られて、世代間交流ができる集いの場」である『空とべ!つつじ』を実施することができた。
- 地域支え合い推進員は、協議体に参加し、住民のニーズとのマッチングを行うことで、新たな資源の創出を目指した。

きっかけ

- 以前から地域の課題として、つつじヶ丘駅周辺には人が集えるような公共施設やサロン（人が繋がるための集まり）が少ないことがあがっており、「地域を活性化するようなきっかけが作りづらい地域」と言われていることを知った。
- 新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の交流が減っていた。
- つつじヶ丘駅近くにある精神科病院がリニューアルされ、社会福祉法人が運営するカフェが併設された。その法人には、営業時間外のカフェを地域の交流に役立てたいという意向があり、地域活動に活用ができることが分かった。

現状の確認

- 住民の「地域にこれがあったらいいな」を調査する機会として、認知症サポーター養成講座を実施した。講座の後半に、他地域で行う地域活動を紹介し、参加した方々の意見を多数聞くことができた。
- 協議体への参加は、参加しやすいように自由参加とし、その都度来た方から、自由な意見を引き出した。
- 法人やカフェのスタッフと、カフェを地域活動に活用するイメージやアイデアについて意見交換を行った。

見えてきたこと

- 地域には「様々な世代が交流できる場が欲しい」、「ふらっと立ち寄れる居場所が欲しい」、「運動や健康作りができる場が欲しい」等の『あったらいいな』というニーズが多くあること。
- 「他者、他年代と交流をすること」、「入りやすい雰囲気」、「健康」、といった地域活動に興味のある方が多くいることが分かった。

年間のスケジュール

| 月／内容 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|------------|---|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|
| 協議体開催の働きかけ | ☆ | | | | | | | | | | | |
| 協議体 | | ☆ | ☆ | ☆ | ☆ | ☆ | ☆ | ☆ | ☆ | | ☆ | ☆ |
| 勉強会 | ☆ | | | | | | | | | | | |
| プレ活動 | | | | | | | ☆ | | | | | |
| 空とベ！つつじ | | | | | | | | | | | | ☆ |

地域の誰もがふらっと立ち寄れる場所
「空とベ！つつじ」がオーガナイズ

ひとりでふらっと立ち寄れる場所を目標しています！

もちろん無料
飲み物はカフェ内で購入可能
座っているだけでもOK！

毎月第4土曜日
15:00~16:30
場所: 創造園カフェ「空と大地」(東つつじヶ丘 2-27-1)

お手玉、けん玉、折り紙、あやとりなど、大人と子どもも誰もが教えたり、教えられたりしています！

開催日(令和4年)
4/23 5/28 6/25
7/23 8/27 9/24
10/22 11/26 12/24 ...

本日の交換会
読み終えた本をみんなと交換しよう！(本の種類・ジャンルを問わず持ってきた本と交換してください)

お問合せはこちら mail: comimpro.tutsui@gmail.com



ニーズの実現に向け、支え合い推進員の行ったこと



高杉



考えたこと

- 地域へのアウトリーチでは、「世代間交流」や「近所の方、特に子育て世代のお手伝いをしたい」、「ふらっと気軽に立ち寄れる場所が欲しい」というニーズを共通して何度も聞いた。
- 地域では新型コロナウイルス感染症によって、特に人との接点が少なくなっており、新しく知り合った人との関わりの中で役割を求めているのではないかと感じた。
- 複数の専門機関が関わることで、それぞれの強みを生かした人との繋がりを促進させたい。

働きかけ

- 地域支え合い推進員のPRと活動紹介を行い、一緒に活動する仲間集めを行った。
- 毎月実施する協議体では、開催案内のチラシに、前回の意見を載せ、欠席者にも内容が分かるように工夫を行った。
- カフェを運営する法人と、利用上のルールを調整した。

大切にしたこと

- 集いの場を開催するにあたり、多くの意見が集まったが、まずはスタッフも地域住民も実現可能な活動から「やってみる！」ことを大切にしました。
- 活動を「楽しむこと」を第一に、参加者の声を大切にしました。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大により、協議体の開催を迷った時期もあったが、参加する地域住民の「話し合いを継続したい」という想いを大切に寄り添った。



活動者の感想

- 「（高齢女性から）小さな子どもと触れ合えてとても楽しかった」
- 「昔遊びが懐かしく、夢中で時間が過ぎた」
- 「本の交換に参加して、気になっていた本を読むことができた」
- 「もっと長い時間が過ごせて、いつでも来られる場をこの地域に作りたい」
- 「法人の行う子ども食堂と一緒に、何か活動がしたい」
- 「地域の特技を持った方が、活躍できる場になると良い」

空とべ！つつじの今後の展望

- 今後も「集いの場」活動を毎月行い、地道に仲間を増やしていきたい。
- 「集いの場」を通じた人と人との出会いを大切にし、その繋がりから新たに生まれるものを地域の楽しみにしたい。
- 地域住民、特に高齢者の特技を活かせる場として住民の主体的な活動参加に期待したい。
- 認知症サポーター養成講座から始まった経緯もあり、認知症の方やその家族の「集いの場」にしていくことも模索していきたい。

スーパーバイザー室田先生より

市内各地に地域支え合い推進員の配置が必要な理由は、地域ごとに異なるニーズがあり、異なる事情があり、かつそうした地域の状況が常に変化するからです。令和3年度から新たに緑ヶ丘・滝坂小地域に地域支え合い推進員が配置されましたが、この事例が示すように、住民の「やりたい！」という思いや「あったらいいな」という望みを具体的な活動へと結びつけるにあたり、地域支え合い推進員の存在は大きなものだったといえます。どの地域にも、「やりたい！」や「あったらいいな」という声はあるものですが、そうした声を拾い集め、つないで、形にしていく人がいなければ、そのまま消えていってしまうことが少なくありません。

この事例では、地域支え合い推進員が地域の中の協議体設立を支援し、その協議体で意見交換をしながら集いの場として「空とべ！つつじ」を開催することになりました。協議体という少し堅苦しい印象があるかもしれませんが、本事業では地域住民が協力して活動することを「協議体」と位置付けています。ただし、どのような活動でも良いというわけではなく、地域に開かれた活動であることが重要です。「空とべ！つつじ」では、参加希望者が自由に参加でき、会合が定期的に行われるという点で、協議体としての役割を果たしています。今後も新たな人の出会いやつながりが生み出されることが期待されています。

東京都立大学 室田信一

事例2 特産物を通じた“つながり”づくり 『北ノ台ふれあい朝市』

北ノ台・深大寺
エリア

地域支え合い推進員：浜口

概要

- 「北ノ台ふれあい朝市」は、社会福祉協議会が実施する第4次調布市地域福祉活動計画～見直し計画～を推進するために調布市地域福祉活動計画推進委員会を設置し地域の住民や関係機関の方々と話し合いを重ねた結果、地域課題（高齢化が進んでいる・買い物できる場所が少ない・交流できる場が欲しい）を解決するため、平成27年度に畑が多い地域性を生かし「山野のふれあい朝市」を開催したこと前身となっている。
- 平成28年度から北ノ台まちづくりネットワーク（地区協議会）主催による地域住民の自主的な活動として引き継がれ、地域の保育園に場所を提供いただき、年2回、開催している。
- 現在、新型コロナウイルス感染拡大のため、地域での交流の機会が減少する中においても、工夫を重ね感染予防を行いながら地域の居場所・多世代交流の場として活動を継続し続けている。

きっかけ

- 新型コロナウイルス感染症の影響で、「北ノ台ふれあい朝市」以外の、これまで地域で盛んに行われていた居場所やサロンでの交流が激減した。
- 地域住民の中には買い物などに気軽に出かけることがなくなったことで、ご近所同士の会う機会が減少、そして期間が長引いたため、「みんなが元気になっているのか」と心配している方の声が多く聞かれた。
- 地域で、どの方に会っても、外出先や外出すること自体が激減し、歩く距離が減り「自宅にこもりがちになった」という声が聞かれていた。

現状の確認

- 地域の活動として、高齢者をはじめ多くの地域住民に周知され、交流の場として根付いている。
- 朝市は屋外で開催し、大きな声も発さないため、屋内で行う活動と比べると、換気の面では新型コロナウイルス感染症のリスクが減らせるのではないかと。
- 「今年は、朝市は開催しないの？」と活動ができないことを嘆く声が多数寄せられることから、多くの地域住民が楽しみに、そして愛着を持っている活動であることに気づいた。

見えてきたこと

- 「北ノ台ふれあい朝市」を主催する「北ノ台まちづくりネットワーク」には、様々なメンバーが参加し、コロナ禍においても、感染予防対策を行い地域の繋がりづくりのために活動しようと取り組んでいる。
- 高齢者の方は特に「人と話したい」、「ご近所の方や友人と短時間でも会いたい」と思っている。
- 現在でも、交流の場を見つけにくい状況に変わりはない。
- 徒歩圏内やご近所だからこそ、活動する場に行けるという強みがある。
- 地域の福祉施設に協力してもらい、利用者送迎用の車両を活用し送迎をすることで、歩行に不安がある高齢者も参加できるようにするなど配慮がされている。

年間のスケジュール

| 月／内容 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---------|---|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|
| 協議体 | | | | ☆ | | | | ☆ | | | | |
| ふれあい朝市 | | | | ☆ | | | | ☆ | | | | |
| 保健所への申請 | | | | ☆ | | | | ☆ | | | | |

7月11日(日)
午前9時～11時
深大寺保育園
駐車場(雨天中止)
送迎バス運行
梅の湯駐車場・保健所
とりで公園前・保健所
行き 9:00、9:30 帰り 10:00、10:30

北ノ台
ふれあい朝市

みんなの元気にかぎらず
夏の朝市に集って

地元の新鮮な野菜・果物
切り花等
いろいろな農産物の販売

感染症防止対策として
開催します

ご来場とご来客のお願い
ご来場の皆様、マスクの着用をお願いいたします。
ご来客の方には手動消毒機の協力をお願いいたします。
会場内に休憩所、トイレ、椅子等と設けてあります。
駐車場の混雑して、入場を制限させていただきます。
来場が予定されない方は、ご来場をお断りいたします。
お断りした場合は、ご連絡をお願いいたします。

みなさんに伝えるの定
断心ふりしてはます!

マスクの着用を
お願いします!

主催 北ノ台まちづくりネットワーク 協力の場 会館
共催 調布市社会福祉協議会 地域交流課 駐留

「北ノ台・ふれあい朝市」会場マップ

会場付近の案内
ご来場の際は、マスクの着用をお願いいたします。
会場入口には手動消毒機の協力をお願いいたします。
到着の際は、消毒機を使って各自のマスクを消毒してください。
会場内、トイレ、椅子等は設置してあります。
駐車場の混雑して、入場を制限させていただきます。
来場が予定されない方は、ご来場をお断りいたします。

ご来場の際は、マスクの着用をお願いいたします。
会場入口には手動消毒機の協力をお願いいたします。
到着の際は、消毒機を使って各自のマスクを消毒してください。
会場内、トイレ、椅子等は設置してあります。
駐車場の混雑して、入場を制限させていただきます。
来場が予定されない方は、ご来場をお断りいたします。

送迎バス運行

| 梅の湯付近 → 深大寺保育園 | | とりで公園付近 → 深大寺保育園 | |
|----------------|---------|------------------|---------|
| 行き (浅草橋の湯前) | 帰り (学園) | 行き (深大寺七尾前) | 帰り (学園) |
| 9:00 | 10:00 | 9:00 | 10:00 |
| 9:30 | 10:30 | 9:30 | 10:30 |

送迎バスについて
ご乗車の際は、マスクの着用をお願いいたします

- ふれあい朝市会場のお客様のみご利用いただけます。(ご予約不要/無料)
- 送迎料無料。行き・帰りのどちらか片道またはのどちらでもご利用いただけます。
- 「梅の湯前」「とりで公園」→「深大寺保育園」間の所要時間は約5～15分です。
- 送迎など諸事情によりバスの到着、出発時間は多少前後する場合があります。
- 定員を超えての乗車はできません。その場合は次のバスをお待ちいただく場合があります。
- 「梅の湯前」「とりで公園」付近は公共スペースのため、遠くにご乗車願います。
- バスは全て「希望の家深大寺」と「わかば第一事業所」のマイクロバスで運行いたします。

ニーズの実現に向け、支え合い推進員の行ったこと



浜口



考えたこと

- 地域の様々な団体や関係機関，福祉施設と一緒に地域の事を考える貴重な機会になるのではないかと。
- 長年の取り組みで，地域に無くてはならない活動となっている。どうしたら継続ができるだろうか。

働きかけ

- 新型コロナウイルス感染症予防対策についての確認をした。
- 配布するチラシへの感染予防対策の記載。
- 地域活動の状況を共有した。
- 外出の機会が減った高齢者の実態を共有し，一緒に地域づくりを考えることを提案した。

大切にしたこと

- その場での出会い，元気でいたいと思えるきっかけ，お互いに会える喜びを感じる機会，繋がる機会とした。
- 一人ひとりの活動への思いや，朝市への思い入れを大切にした。



活動者の感想

- 子どもから高齢者までの多世代や、この地域に新しく転居してきた住民同士が、顔見知りになり、つながりを深めていけるような場になると思う。
- 高齢者で家に閉じこもり、外出をあまりしない方もいると知り、何か興味を持って地域に出てみるような機会の一つとして朝市を続けたい。

今後の展望

- 活動回数を重ねるにつれ、協力者も増え、北ノ台と言えば「朝市」と地元の人が思い浮かぶ活動になるよう、内容を検討し活動を継続していく。
- 「朝市」のメンバーが集まって、他の多世代交流の場【子ども食堂】や【ピンポンクラブ(卓球)】へと派生し、新たな活動が生まれている。更に新しいメンバーが加わり、様々な活動が開始されていく「きっかけ」となり、今後も地域に密着した活動が派生するよう支援したい。
- 多くの活動者が関わり、負担や不満感なく主体的な活動を行えるよう、気軽に相談や話し合える場であることも大切に、地域活動を継続していきたい。

スーパーバイザー室田先生より

「農福連携」という言葉があるくらい、近年は社会福祉と農業を結びつけた取り組みが増えてきています。平成27年度から、北ノ台・深大寺エリアでは、エリアの特徴でもある農業と福祉活動を結びつけた、ふれあい朝市の取り組みが推進されてきました。ふれあい朝市の特徴は、買い物や移動に不便を抱える住民が多いという地域の実情から始まった取り組みで、そのために送迎バスの運行も併せて実施している点です。市内に限らず、全国的にも先駆けといえる実践であるため、他の自治体からも注目されています。

しかし、地域を象徴するそうした取り組みであっても、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い活動の継続について検討する必要性が生まれました。不特定多数の人が参加する活動で、しかも会場が保育園ということもあり、開催に慎重になる必要がありましたが、感染症予防対策を徹底した上で活動を継続したことは、勇気のいる決断だったと思われます。

ふれあい朝市に限らず、多くの地域活動は新型コロナウイルス感染症の影響から活動の自粛を余儀なくされました。人が集まることに対する抵抗感が強くなり、家に閉じこもりがちになる人が増えました。そうした中、ふれあい朝市が活動を継続できたことは、地域の関係者の強い思いだけでなく、それを後押しする準備や環境整備があったからこそのもので

東京都立大学 室田信一

事例3 高齢者の多い地域で魅力ある街づくり

『にぎわいのある街をつくる会』

染地・杉森・布田
エリア

地域支え合い推進員：北島

概要

- 『にぎわいのある街をつくる会（以下「会」とする。）』は、「学術・文化、芸術又はスポーツの振興を図ることで地域を活性化し、地域住民が楽しく生き甲斐のある生活ができるよう支援する」ことなどを目的に地域住民の有志が集まり令和3年に発足した。
- 令和3年度は、「にぎわい謎解きラリー」「にぎわいIQ体操」「にぎわい親子Xmasコンサート」を企画・運営し、高齢者・地域・多世代の、つながり創出のための働きかけを行った。

きっかけ

- 会は、地域住民によって発足した任意の会である。
- 会の代表者より相談を受けたことをきっかけに、地域支え合い推進員も令和3年4月から協議体へ参加することとなった。
- 地域支え合い推進員は、毎月行う協議体に参加するとともに、地域の活動を行う他団体をはじめ、地域活動を行いたい市内の大学、調布市が主催する※CDC運動とのマッチングを行った。

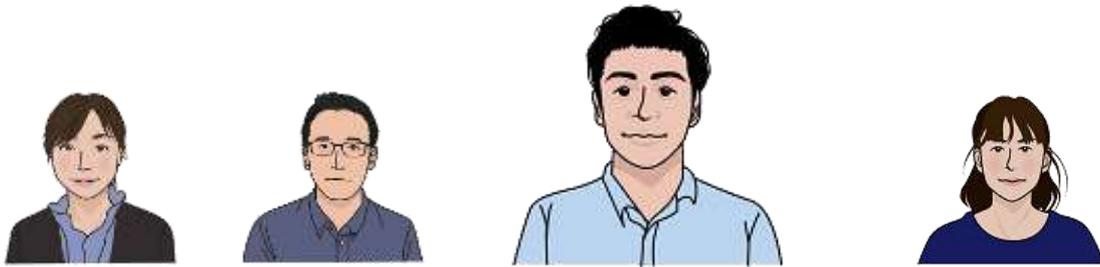
現状の確認

- 新型コロナウイルス感染症の影響で、これまでのような活動ができない。
- 活動は、徒歩や自転車に参加可能な福祉圏域内で行うことを大切にしている。
- 活動内容は、地域の特徴である、多くの高齢者を対象とした活動もあるが、高齢者のみに限定せず、その他の年代も参加可能な企画とし、地域全体に働きかける活動をしている。
- 会の主な構成メンバーは、染地・杉森・布田小学校のエリアに住む地域住民である。

見えてきたこと

- 活動費が少ない。
- 会のメンバー同士が、自治会や管理組合、民生児童委員、趣味のサークルなど、多様な繋がりを多く持ち、人脈に優れていること。
- イベントを開催する上で、交通安全、景品、器具の貸し出しなど市内の他団体との協力・協働を行えるのではないかと。
- CDC事業開始に伴い、電気通信大学などが地域参画を希望していること。

ニーズの実現に向け、支え合い推進員の行ったこと



北島



考えたこと

- 屋外実施のため、規模が大きく、スタッフの不足が懸念された。行政が実施する CDC 事業において、大学が持つ「地域住民と出たい」というニーズをマッチングすることで両方のニーズ充足になるのでは…？
- 福祉に特化した活動ではないものの、「街づくり」といった視点からの福祉を考えることができるのではないか。

働きかけ

- 他圏域の地域支え合い推進員と連携し、他地区で行う青色防犯パトロールを行う団体や NPO フードバンク調布といった活動団体と協働・協力を得られるようにマッチングを行った。
- 大学の先生と学生に、当日の運営スタッフとして参加いただいた。

大切にしたこと

- 新型コロナウイルスの感染者数の増減も著しく、イベントや会議が思うように開催ができない時期も多かったが、諦めず、状況を冷静に捉え、実現に向けた工夫やアイデアを考えるメンバーの主体的な姿勢や考え方は活動にとって重要な推進力だと考え、大切にされた。

活動者の感想

- 「令和 3 年度は 3 回の活動を通して、想定以上の参加者と活動団体の方々に参加していただき、多くの『にぎわい』が創出され、本当に嬉しく思いました。」
- 「活動は、一人一人の力の結集で、できていることを改めて実感した会だった。」
- 「初めてのことも多く、戸惑いもありましたが工夫次第でなんとかなりそうな気もしている。経験を積む中で、『にぎわい』を作る方策を研究したいと思います。」

年間のスケジュール

| 月/内容 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|-------------|----|----|----|---|---|---|----|----|----|---|---|---|
| 協議体 | ☆☆ | ☆☆ | ☆☆ | ☆ | ☆ | ☆ | | ☆ | ☆☆ | ☆ | ☆ | ☆ |
| にぎわい謎解きラリー | | ☆ | | | | | | | | | | |
| にぎわいIQ体操 | | | | | | | ☆☆ | | | | | |
| 親子Xmasコンサート | | | | | | | | | ☆ | | | |
| 保険申請 | | ☆ | | | | ☆ | | | ☆ | | | |



ちょっと、足を伸ばして
いつもは行かない公園に。
親子連れや、ご夫婦でウォーキングしながら楽しむ。
体も喜び、頭の体操にもなる。

謎解きラリー

謎を解くと
驚くくらいおもしろいよ!

2021年5月9日(日)
受付: 10:00~11:00
受付場所: はむね(八号棟)集客室
参加費: 100円(参加費全額おみやげつき!)

主催: にぎわいの会(任意)をつくる会、後援: 多摩市認知症対策推進委員会
協力: はむね(認知症対策推進委員会)、多摩市認知症対策推進委員会、1号館子ども会、東北福祉大学(認知症対策推進委員会)



10月26日
口時間: 9:30 / 11:00
口定員: 各回12名
口場所: ト号棟集客室

10月28日
口時間: 9:30 / 11:00
口定員: 各回12名
口場所: 口号棟集客室

10月29日
口時間: 9:30 / 11:00
口定員: 各回16名
口場所: 八号棟はむね集客室

主催: にぎわいの会(任意)をつくる会
後援: 多摩市認知症対策推進委員会
協力: 東北福祉大学(認知症対策推進委員会)、多摩市認知症対策推進委員会、1号館子ども会、東北福祉大学(認知症対策推進委員会)

みなさまは「スクエアステップ」をご存知ですか?
スクエアステップは、高齢者が転倒予防・要介護予防・認知機能向上をはじめ、個人の生活課題の解決などに効果のあるエクササイズを習得しています。
この日、東北福祉大学の大学院生(運動学)が指導でランニング(お楽しみは!)を体験して楽しんでいただく予定です。
あなたもぜひこの機会にスクエアステップをお楽しみください!



にぎわい
親子クリスマスコンサート

♪ 楽しい♪
おんがくとおみやげかせ

12/19日
13:00-14:30

会場: 遠藤学園新沢中校
※参加費 中央: 200円 児童: 100円

プレゼント
あります!

プログラム
「トロイメライ」「エオリアンハーブ」「ディズニースドレー」
「アヴェヴェルムコルプス」「クリスマスソング」他
よききげの おはなしは オイショだよ。お楽しみあれ!

主催: にぎわいの会(任意)をつくる会、後援: 多摩市認知症対策推進委員会
協力: 遠藤学園新沢中校、多摩市認知症対策推進委員会、1号館子ども会



『にぎわいのある街をつくる会』の今後の展望

- 多様な人や団体とも連携しながら、活動をお手伝いしたり、手伝ってもらいながら、高齢者をはじめとした地域住民同士が顔見知り・関係を築くことで、地域の活性化をしていきたい。そして、それを地域の魅力としたい。
- 地域の魅力の活性化を通じて、福祉や教育といった側面も豊かにしていきたい。



スーパーバイザー室田先生より

現代社会は人と人が自然につながることが難しくなっているといわれています。理由は様々ですが、家族形態の変化（核家族化や一人暮らしの増加）、個人単位でも受けることができる様々なサービスの増加、テレビやインターネットなど個人をターゲットにしたメディアの充実など、いわゆる個人化といわれる現象が広がり、他者と共に何かをする機会が減少してきています。そのことに追い打ちをかけるように、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、人と人のつながりがさらに希薄になりました。

この事例で取り上げた「にぎわいのある街をつくる会」の活動は、同じ地域に居住している住民同士が出会う機会、時間を共に過ごす機会を提供するという点で、まさに個人化に歯止めをかけるような活動といえます。また、協議体に参加している企画メンバーは自治会や管理組合などに所属しており、組織内のつながりはありますが、協議体に参加したことにより横のつながりが生まれました。そのように横のつながりができることは、さらに大きなつながりを生み出し、お互いがもっている資源（人的資源や会場、物品など）を共有することで、これまでできなかったことができるようになったり、新たな活動が生まれたりします。協議体が発足して、地域ににぎわいを生み出されたことに加えて、地域におけるつながりと資源の循環というより大きな効果も期待されます。

東京都立大学 室田信一

事例4 企業の地域貢献活動と連携した取組 『シニア向けスマホ講座』

第三・石原・飛田給
エリア

地域支え合い推進員：佐藤

概要

- 地域へのアウトリーチを行う中で、地域住民の方から「スマホに機種を変更したら、電話の取り方がよく分からない」、「スマホの使い方を教わりたいが、新型コロナウイルス感染症の影響によって教えてもらえる人がいない」という声が多く聞かれた。
- 民間企業の地域貢献活動と連携し、すでにスマートフォン（以下、「スマホ」という）を利用している人も、利用していない人も参加可能なスマホ講座を地域福祉センターで開催した。

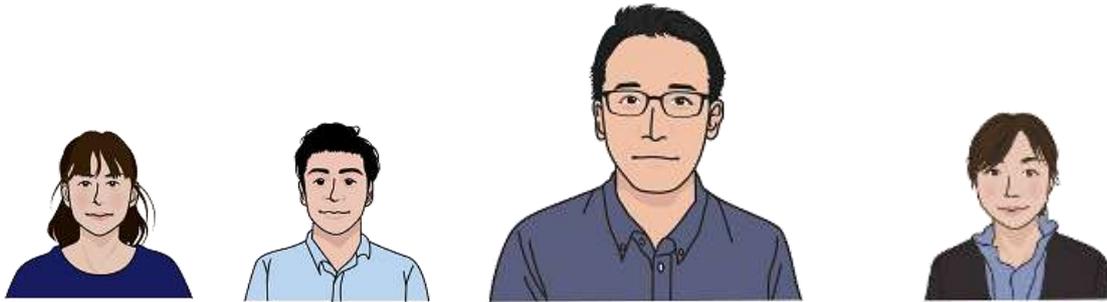
きっかけ

- 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、「地域の憩いの場であった地域福祉センターも、利用者が少なくなり、交流の機会が激減した」という声を聞いて、久しぶりに顔を合わせて交流ができる場を作れないかと考えた。
- アウトリーチを通じ、地域の活動者から「直接会う機会がなくなり、“スマホ”を使って連絡を取り合うことが増えた。しかし、使い方がよくわからない」、「操作を教えてほしいが、身近に教えてもらえる人も、場もない」といった不安の声を多く聞いた。
- 「発災時の避難所情報など、必要な時に情報を得られるか不安に感じている」という声が聞かれた。

現状の確認

- こうしたニーズが他にも埋もれていないかを正しく把握するため、地域福祉コーディネーター、ボランティアコーディネーターなどと連携し、圏域内の高齢者を中心としたスマホに関する相談状況の共有を行った。
- ひだまりサロンの参加者や、民生児童委員と一緒に、スマホの日常的な使い方や操作で悩むこと、よく聞かれる質問について意見交換を行った。
- 安心して参加できる“スマホ”講座を開催するため、会場の定員や感染対策について入念な検討を行った。

ニーズの実現に向け、支え合い推進員の行ったこと



佐藤



考えたこと

- 習熟度が多様な参加者全員が「参加してよかった」と思える講座にするため、地域のニーズである水害を中心とした発災時の情報や、身近な地域の情報を得る体験を取り入れてはどうか？
- 講座を通じて地域支え合い推進員を周知し、「活動を開始したい地域住民」や「活動に参加したい高齢者など」と知り合うきっかけを作りたい。

働きかけ

- 西部公民館で開催されたシニア向けスマホ講座をボランティアコーディネーターと共に見学し、講座開催に向けたイメージ作りを行った。
- 総合防災安全課に、発災時の情報入手方法を確認して、風水害時に役立つ情報特集が組まれた市報を教わった。

大切にしたこと

- 新型コロナウイルス感染症の影響によって、久しぶりに地域福祉センターに外出する方にも安心して参加したいと思える講座になること。
- 高齢者などの生活支援を考えるため、スマホ講座を通して、地域の情報や日頃の困りごとや生活状況を伺う機会にしたい。



参加者の感想

- 初めてスマホを使ったけど、電話以外にも色々なことができて便利だった。
- これからは自分でも迷わず操作ができそう。
- 身近な場所でスマホ講座が開催されたので、気軽に参加することができた。
- 地域福祉センターなど身近な場所で、気軽にスマホの使い方を教えてもらえる場が定期的に欲しい。

今後の展望

- 身近な地域福祉センターなどで、気軽にスマホの使い方を教え合える場の立ち上げを地域住民と検討したい。
- スマホ講座で、災害時の避難所情報を得る体験をして感じた、高齢者などの風水害や防災の不安・ニーズに寄り添いながら、活動を模索したい。
- 地域でのつながりを増やし、「こんなことがしたい」「こんなものがあっていいな」の話し合いをさらに広げて、皆さんと一緒に考えていきたい。



スーパーバイザー室田先生より

生活支援というと、食事の支援や移動の支援、生活上のちょっとした困りごとのサポート、集いの場の提供、見守り活動などがその主なものと考えられますが、近年注目を集めている活動としてスマホ講座のような情報保障の活動に注目が集まっています。新型コロナウイルスのワクチン接種の予約など、今や日常のさまざまな手続きや生活の利便性を高めるために、スマホを使用することが欠かせなくなってきました。そのような点でも情報弱者といわれるシニア層向けのスマホ講座を開催したことは、意義深い取り組みといえます。

生活支援のコーディネートにおいて重要なことは、個別に相談が寄せられたりニーズを把握したケースであっても、それを個別に解決するのではなく、同様のニーズを抱えている人が他にいないか確認して、集合的なニーズを把握することです。個別に対応するのではなく、講座を開講することで、それだけニーズがあることを可視化することができ、さらに講座に集まった人同士が結びついて、共に学び合うコミュニティとして力をつけることができます。個別の支援を繰り返しては、そのような効果は期待できません。情報弱者が組織化されることによって、情報弱者の声を発信することができ、情報弱者が排除されにくい社会を作っていくことにも貢献できます。

東京都立大学 室田信一

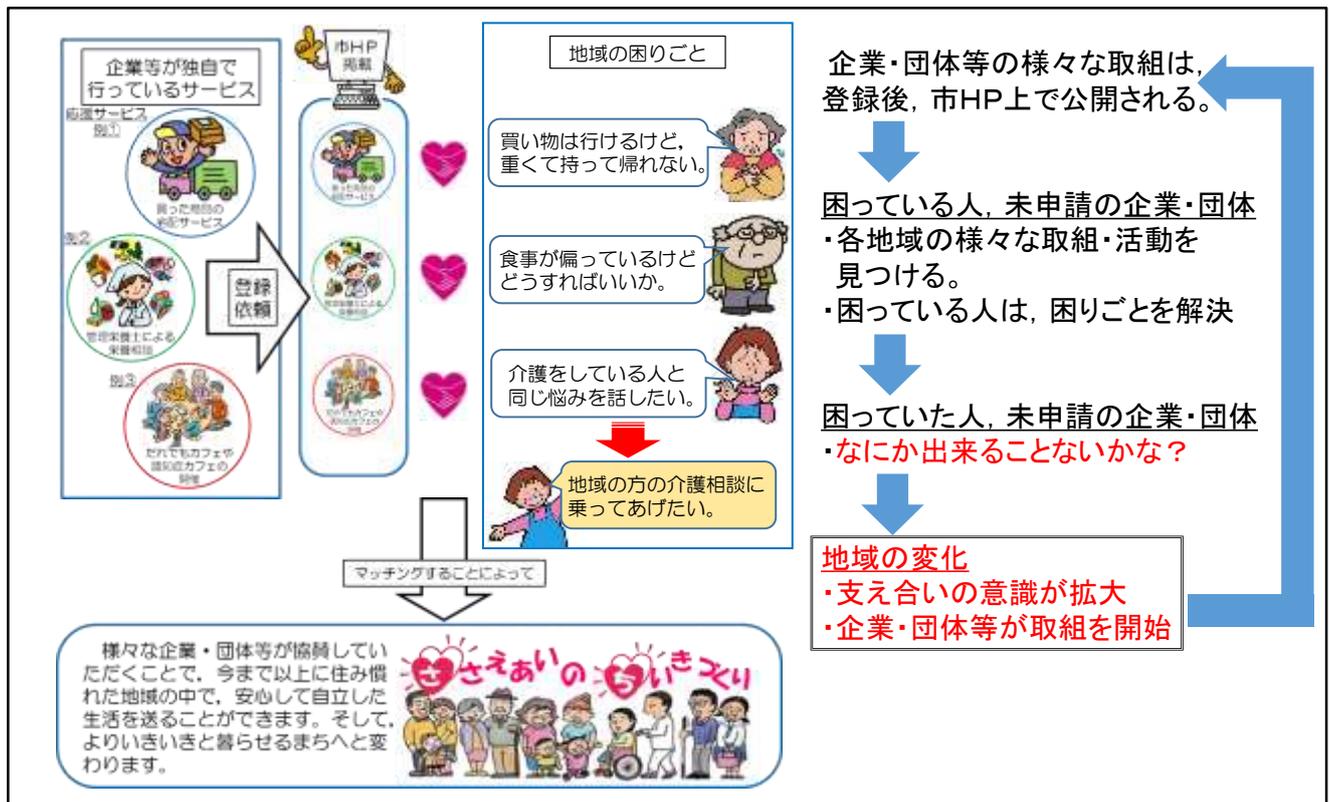
市全体的な活動（第1層）

セカンドライフ応援キャンペーン

「セカンドライフ応援キャンペーン」は、高齢者が自立した生活を送ることができるよう、企業や地域団体等が行う独自の支援、サービス、地域活動等を集約し、公表するキャンペーンです。多様な取組等を集約し、見える化することで、その取組を必要とする人とのマッチングを支援することが出来ます。また、多様な取組等を行う企業等とのネットワークを構築することで、支え合いの地域づくりを推進します。

また、セカンドライフ応援キャンペーンのセカンドライフとは、辞書では「第2の人生」、「特に定年退職後の人生」となっていますが、本キャンペーンでは、高齢者に限らず、これまでの生活の中心であった仕事や家事、育児などに区切りがついたことで始まる新たなライフステージと定義しています。具体的には、「親の介護を始める」、「定年退職後に地域活動を始める」、「今までやったことのない趣味活動を始める」、「地域のボランティアを始める」などの新たなライフステージを応援するものです。

～セカンドライフ応援キャンペーンの流れ～



このキャンペーンを協賛する企業・団体の数は令和4年3月31日現在で、見守り活動が銀行や事業所などの72団体、活動場所の提供が特別養護老人ホームや銀行、薬局の4団体、生活支援サービスとしてスーパーで行っている買った商品の配達等は13団体、活躍の場が3団体、介護予防活動支援が6団体、その他、スマホ講座や多世代交流の場などが6団体の合計104団体です。（一覧はP20の【資料編】または右ページの右下から市ホームページ参照）令和3年度は新たに10企業・団体に「見守り活動」、1企業に「介護予防活動支援の実施」で登録いただきました。

●セカンドライフ応援キャンペーン運営検討会
運営検討会では、地域支え合い推進員だけでなく、地域住民や地元企業も含めて地域での課題解決や地域資源の集約を目指しています。

令和3年度は、さらなる普及啓発を目的として、キャンペーンのチラシを作成しました。

『セカンドライフ
応援キャンペーン
の協賛企業・協賛団
体一覧』は市ホーム
ページでも確認で
きます



<PC サイト>

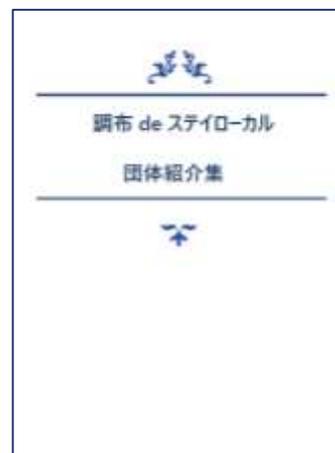


<セカンドライフ応援キャンペーンのチラシ 左：表紙 / 右：見開き >

調布 de ステイローカル

コロナ禍でも、ヒト・モノ・カネ・サービスといった地域の資源が循環することで、身近な地域の中で日常生活が成り立ち、娯楽や地域活動への参加など生きがいを得られる機会が用意されていることで、人々が地域のなかで大半の時間を過ごすことができる状態を、ステイローカルと定義しています。

令和3年度は4月にステイローカルを推進するための具体的な実践活動を話し合い、7月には「しばさき彩ステーション」と「シンクハピネス」の見学会を行いました。また、それぞれの団体の活動内容や困りごとなどを共有するために、「調布 de ステイローカル 団体紹介集」を電気通信大学の大河原先生が取りまとめて作成してくださいました。



常設通いの場スタートアップ事業補助金

令和3年度から始まったこの補助金は、住民からの相談を受け、専門職につなぐことのできる相談体制を有する通いの場に対し、立ち上げや運営にかかる費用の一部を補助するものです。この事業は「常設」「スタートアップの2年間限定」に絞って、市、社会福祉協議会と協働が可能な人材・団体の発掘・育成を目指すところに特色があります。初年度は「しばさき彩ステーション」と「仙川POSTO」に交付しました。次年度以降も、誰もが気兼ねなく集える場所の創出を目指し、住民・企業・団体と相互連携して参ります。

つながり創出による高齢者の健康増進プロジェクト ～CDC（調布・デジタル・長寿）運動～

●CDC運動

調布スマートシティ協議会のメンバーである、国立大学法人電気通信大学、アフラック生命保険株式会社、調布市による「つながり創出による高齢者の健康増進事業～CDC（調布・デジタル・長寿）運動」（以下、「CDC運動」）の取り組みです。

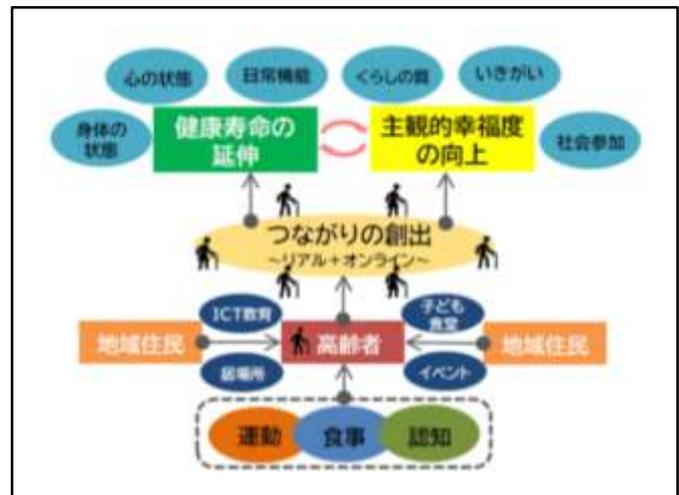
高齢者の情報格差解消に取り組むとともに、リアルとオンラインを組み合わせた健康増進プログラム（運動、食事、認知に関する健康教室など）を通じて強いつながりを創出することにより、健康寿命の延伸につなげるとともに、幸福度の向上を目指しています。

なお、本事業は、東京都の「子供・長寿・居場所区市町村包括補助事業」に採択されたものです。（令和3年度～令和5年度まで）

CDCの情報は調布スマートシティ協議会のホームページ内の特設ページでご確認いただけます。



<PCサイト>



令和3年度は地域住民の方へ、1月初旬に郵送によるアンケート調査を実施（発送数3,742件、回答数2,491件、回収率66.7%）し、スマホ保有率65.7%から高齢者のデジタル化を伺い知ることができました。また、2月～3月でオンライン健康教室を開催しました。

地域住民への取り組みに関する説明（2021年9月～2022年1月）

| | |
|-------|--|
| 深大寺地区 | 野ヶ谷の郷役員会、北ノ台まちづくりネットワーク、ふじみ地区自治会等連合会幹事会 など5回開催 |
| 染地地区 | にざわいのある街を作る会、ときわぎ国領包括支援センター連絡会、多摩川住宅説明会 など7回開催 |

郵送アンケート調査（2022年1月～2月）

| | |
|--------|---|
| 実施時期 | 2022年1月5日（水）～2月6日（日） ※1月25日（火）に未返信者へリマインドはがきを発送 |
| 対象者・人数 | 調布市深大寺北町1～7丁目、調布市深大寺東町5～8丁目、調布市染地3丁目の65～84歳の自立高齢者3,742名 |
| 主な調査項目 | 主観的幸福度、健康状態、生活習慣、身体活動、身体機能、情報通信機器の利用等 |
| 回収率 | 66.7%（発送数3,742件、回答数2,491件）（2月25日時点） |

オンライン健康教室（2022年2月～3月）

| | | | | | | | | |
|-------|--|--|-------------|------------|-------------|-------------|-------------|--|
| 2022年 | 2/14(月)染地 2/15(火)深大寺 | 2/17 (木) | 2/24 (木) | 3/3 (木) | 3/10 (木) | 3/17 (木) | 3/24 (木) | 3/28(月)、29(火) |
| 概要 | 健康教室開催前(対面) | 健康教室開催中(非対面・オンライン) | | | | | | 健康教室開催後(対面) |
| | <ul style="list-style-type: none"> 健康教室の説明 健康数値の測定 デジタル機器の配布 など | <ul style="list-style-type: none"> 専門トレーナーのもと、オンライン健康教室へ参加（看護師がオンラインで安全性を常時経過観察） 写真共有アプリを使用した参加者コミュニケーション など | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> 健康数値の測定 振り返り意見交換 継続教室について など |

令和 2 年度は、コロナ禍でも活動可能な新たな取り組みを生み出すということが意識された 1 年間でした。それに対して今年度は、新しい生活様式を意識した上で、工夫を凝らして地域活動を継続した事例や、地域を再活性化するための活動、新たに生まれてきたニーズに対応する活動など、コロナ後の地域を新たに創り出すための基盤が形成された時期になったといえます。大きな変化として、令和 3 年度からは第 2 層の地域支え合い推進員が 2 名増員され 4 名体制になったことです。調布市では福祉活動を推進する圏域を 8 つに分けて、各地で活動する関係機関の連携を推進する仕組みを作ってきています。4 名体制になったことで、これまでよりもきめ細かく住民の声を拾い、住民の活動を把握し、丁寧なコーディネートを実施することができるようになったといえます。なお、令和 4 年度にはさらに 2 名増員されているため、8 つの圏域を意識した地域づくりの実践が期待されるところです。

もう一つ大きな変化としては、国の地域福祉政策として地域共生社会の推進方針が示されたことです。生活支援体制整備事業は高齢福祉の分野を主戦場としてきましたが、今後は重層的支援体制整備事業の実施を念頭に、高齢福祉の領域に留まることのない、縦割りの制度を超えた地域づくりが求められます。実は、調布市では生活支援体制整備事業が開始された頃から世代や属性を超えた地域づくりを意識してきましたが、ようやくそうしたこれまでの取り組みを政策が後押しするようになりました。今回の報告書でも、多世代の交流を促進する事例が多く、また農業との連携や大学との協働、民間企業の連携など領域を超えた取り組みが展開された点は調布市の生活支援体制整備事業の強みが地域共生社会づくりに結びつくことを示しています。

地域共生社会の議論もそうですが、生活支援体制整備事業を推進する上で、今の社会、今の地域がどのように変化しているかということをお念頭に置くことが重要です。近年、地域の話をするときにコモンズという概念が使われることがあります。コモンズとは地域の中で資源を共有する共同体のようなものです。昭和から平成にかけて、地域づくりの実践は、かつての村落共同体のような助け合いの関係性を取り戻すことに主眼が置かれてきました。地縁組織を基盤とした地域づくりがその主なものでした。今でもそうした地縁関係は重要ですが、近年、地縁関係とは別に、関心縁や志縁といわれるような地域の結びつきがより重要な意味を持つようになってきています。本報告書の事例を見ても、人が結びつく背景には地域のつながり以上に、何か共通の関心や目的を持って集まっていることがわかります。そのような新たな共同体をコモンズと呼ぶことができますが、本事業ではステイローカルという考え方で、地域の中で資源が循環する仕組みを取り上げ、そうした活動に取り組み人同士のネットワークの強化を図ってきました。

第二層におけるステイローカルの実践の立ち上げや掘り起こし、そして第一層におけるネットワーク化が結びつくことで、そしてセカンドライフ応援キャンペーンによる市内の資源が結びつくことで、調布市内の生活支援の大きな渦が広がっていく、そんなイメージを抱くことができる 1 年間となりました。

【資料編】

●セカンドライフ応援キャンペーン 協賛企業・団体 一覧 (敬称略)

見守り：調布市自治会連合協議会，調布市商工会，日本郵便株式会社調布郵便局，(公社)調布市医師会，(一社)調布市歯科医師会，(一社)調布市薬剤師会，東京電力パワーグリッド株式会社調布事務所，東京ガス株式会社西部支店，調布管工土木事業協同組合，ニコニコキッチン調布店，株式会社武蔵野フーズ，調布市民生児童委員協議会，調布市老人クラブ連合会，(社福)調布市社会福祉協議会，(公財)調布ゆうあい福祉公社，みずほ銀行調布支店，みずほ銀行調布仙川支店，三井住友銀行国領支店，三井住友銀行調布駅前支店，三井住友銀行つつじヶ丘支店，三菱UFJ銀行調布支店，三菱UFJ銀行仙川支店，東京スター銀行調布支店，きらぼし銀行調布支店，きらぼし銀行神代出張所，山梨中央銀行調布支店，横浜銀行調布支店，西武信用金庫柴崎駅前支店，東京三協信用金庫調布支店，芝信用金庫仙川支店，多摩信用金庫調布支店，多摩信用金庫調布北口支店，昭和信用金庫つつじヶ丘支店，昭和信用金庫多摩川支店，さわやか信用金庫調布支店，さわやか信用金庫多摩川支店，公益社団法人調布市シルバー人材センター，株式会社ゆうちょ銀行調布店，生活協同組合パルシステム東京，有限会社フジタグリーンシティ，東京都水道局，東京ガスリックリビング株式会社東京ガスライフバル調布粕江，ライフデリ調布店，布亀株式会社，ヤマト運輸株式会社調布支店，多摩南生活クラブ生活協同組合，アルフレッサ株式会社，イースタンモーターズ調布株式会社，東都生活協同組合，生活協同組合コープみらい，東京都住宅供給公社，株式会社スズケン，藍澤證券株式会社アイザワ証券調布支店，株式会社セブン・イレブン・ジャパン，株式会社イトーヨーカ堂，株式会社調布清掃，株式会社吉野清掃，(一財)調布市市民サービス公社，京王不動産株式会社調布営業所，京王メモリアル調布，株式会社ファティック出張美容リンデン武蔵野三鷹，明治安田生命保険相互会社新宿支店，調布市新聞販売同業組合，株式会社マツダ(ASA仙川，ASA柴崎)，株式会社田仲新聞舗(YC調布)，毎日新聞調布販売所(毎日調布)，株式会社石川新聞店(ASA調布，ASA調布北部，ASA国領)，産経新聞調布東部販売所(産経調布東部，産経調布西部)，ASA調布西部，ASA西調布，YCつつじヶ丘仙川，読売センター南調布

活動場所の提供：(社福)寿真会特別養護老人ホームらくえん深大寺，(社福)東京かたばみ会特別養護老人ホーム神代の社，株式会社東京スター銀行調布支店，クオール薬局調布店

生活支援サービスの実施：非特定営利法人たすけあいワーカーズ調布はこべ，(食の支援)イトーヨーカ堂国領店，ライフクロスガーデン調布店，クイーンズ伊勢丹仙川店，マルエツ国領店，マルエツ調布店，東急ストア調布店，株式会社いなげや調布仙川店，株式会社いなげやina21 調布染地店，キッチンコート西調布店，生活クラブ生活協同組合・東京デポー国領駅前店，トップフレッシュマーケット深大寺店，調布&木島平食の駅新鮮屋

活躍の場の提供：NPO 法人ちょこネット，しばさき彩ステーション，特定医療法人社団研精会東京さつきホスピタル

介護予防活動支援の実施：UMM&C 宇野医療経営コンサルタント事務所，クオール薬局調布店，電気通信大学大学院大河原研究室，日本調剤調布薬局，しばさき彩ステーション，特定医療法人社団研精会東京さつきホスピタル，明治安田生命保険相互会社

その他：(子育て支援，世代交流支援)ぷくぷく・ポレポレの家，(職業相談・紹介)府中公共職業安定所，府中公共職業安定所調布国領しごと情報広場，(看取り，葬送相談等)SOGI サポートセンター，(スマホセミナー)ソフトバンク株式会社 (イベント(季節))しばさき彩ステーション

●第1層地域支え合い推進員 活動件数

・活動区分

| | 訪問 | 来所 | 電話 | メール | その他 | 合計 |
|-----|----|----|----|-----|-----|-----|
| 市全域 | 90 | 16 | 1 | 2 | 18 | 127 |

・相手方区分

| | 当事者 | 地域住民 | ボランティア NPO | 行政 (福祉) | 行政 (福祉以外) | 地域包括支援センター |
|-----|------------|-------------|---------------|------------|--------------|------------|
| 市全域 | 1 | 30 | 3 | 13 | 9 | 29 |
| | 民生児童 委員 | その他 専門機関 | 企業商店 | 調布社協 | その他 | 合計 |
| 市全域 | 2 | 24 | — | 39 | 48 | 198 |

・活動内容

| | サービスの 創出 | 担い手の 養成 | 担い手の 活動する 場の把握 | 関係者間の 情報共有 | 連携の体制 づくり | ニーズと 取組の マッチング | PR | その他 | 合計 |
|-----|-------------|------------|----------------------|---------------|--------------|----------------------|----|-----|-----|
| 市全域 | 41 | 18 | 21 | 76 | 71 | 20 | 13 | 20 | 280 |

●第1層協議体 開催回数

| | 開催回数 | 参加延人数 | 活動内容 |
|-----|------|-------|------------------------------------|
| 市全域 | 13 | 172 | セカンドライフ応援キャンペーン運営検討会/調布 de ステイローカル |

●第2層地域支え合い推進員 活動件数

・活動区分

| 福祉圏域 (小学校区) | 訪問 | 来所 | 電話 | メール | その他 | 合計 |
|----------------|-------|-----|-----|-----|-------|-------|
| 緑ヶ丘・滝坂 | 225 | 51 | 126 | 144 | 292 | 838 |
| 北ノ台・深大寺 | 202 | 72 | 276 | 226 | 253 | 1,029 |
| 染地・杉森・布田 | 325 | 43 | 228 | 167 | 268 | 1,031 |
| 石原・第三・飛田給 | 341 | 74 | 119 | 82 | 203 | 819 |
| 合計 | 1,093 | 240 | 749 | 619 | 1,016 | 3,717 |

・相手方区分

| 福祉圏域 (小学校区) | 当事者 | 地域住民 | ボランティア NPO | 行政 (福祉) | 行政 (福祉以外) | 地域包括支 援センター |
|----------------|------------|-------------|---------------|------------|--------------|----------------|
| 緑ヶ丘・滝坂 | 149 | 250 | 25 | 79 | 5 | 110 |
| 北ノ台・深大寺 | 99 | 348 | 31 | 108 | 23 | 71 |
| 染地・杉森・布田 | 118 | 438 | 79 | 93 | 17 | 73 |
| 石原・第三・飛田給 | 92 | 240 | 57 | 93 | 62 | 63 |
| 合計 | 458 | 1,276 | 192 | 373 | 107 | 317 |
| 福祉圏域 (小学校区) | 民生児童 委員 | その他 専門機関 | 企業 商店 | 調布社協 | その他 | 合計 |
| 緑ヶ丘・滝坂 | 27 | 120 | 90 | 331 | 12 | 1,198 |
| 北ノ台・深大寺 | 102 | 193 | 56 | 241 | 8 | 1,280 |
| 染地・杉森・布田 | 24 | 116 | 63 | 217 | 8 | 1,246 |
| 石原・第三・飛田給 | 38 | 123 | 63 | 401 | 27 | 1,259 |
| 合計 | 191 | 552 | 272 | 1,190 | 55 | 4,983 |

・活動内容

| 福祉圏域 (小学校区) | サービスの 創出 | 担い手の 養成 | 担い手の 活動する 場の把握 | 関係者間の 情報共有 | 連携の体制 づくり | ニーズと 取組の マッチング | PR | その他 | 合計 |
|----------------|-------------|------------|----------------------|---------------|--------------|----------------------|-----|-----|-------|
| 緑ヶ丘・滝坂 | 195 | 58 | 84 | 360 | 449 | 118 | 100 | 203 | 1,567 |
| 北ノ台 ・深大寺 | 254 | 138 | 62 | 769 | 537 | 383 | 36 | 121 | 2,300 |
| 染地・杉森 ・布田 | 266 | 183 | 309 | 752 | 645 | 478 | 244 | 133 | 3,011 |
| 石原・第 三・飛田給 | 149 | 72 | 82 | 665 | 594 | 226 | 138 | 128 | 2,054 |
| 合計 | 864 | 451 | 537 | 2,546 | 2,225 | 1,205 | 518 | 585 | 8,931 |

●第2層協議体 開催回数

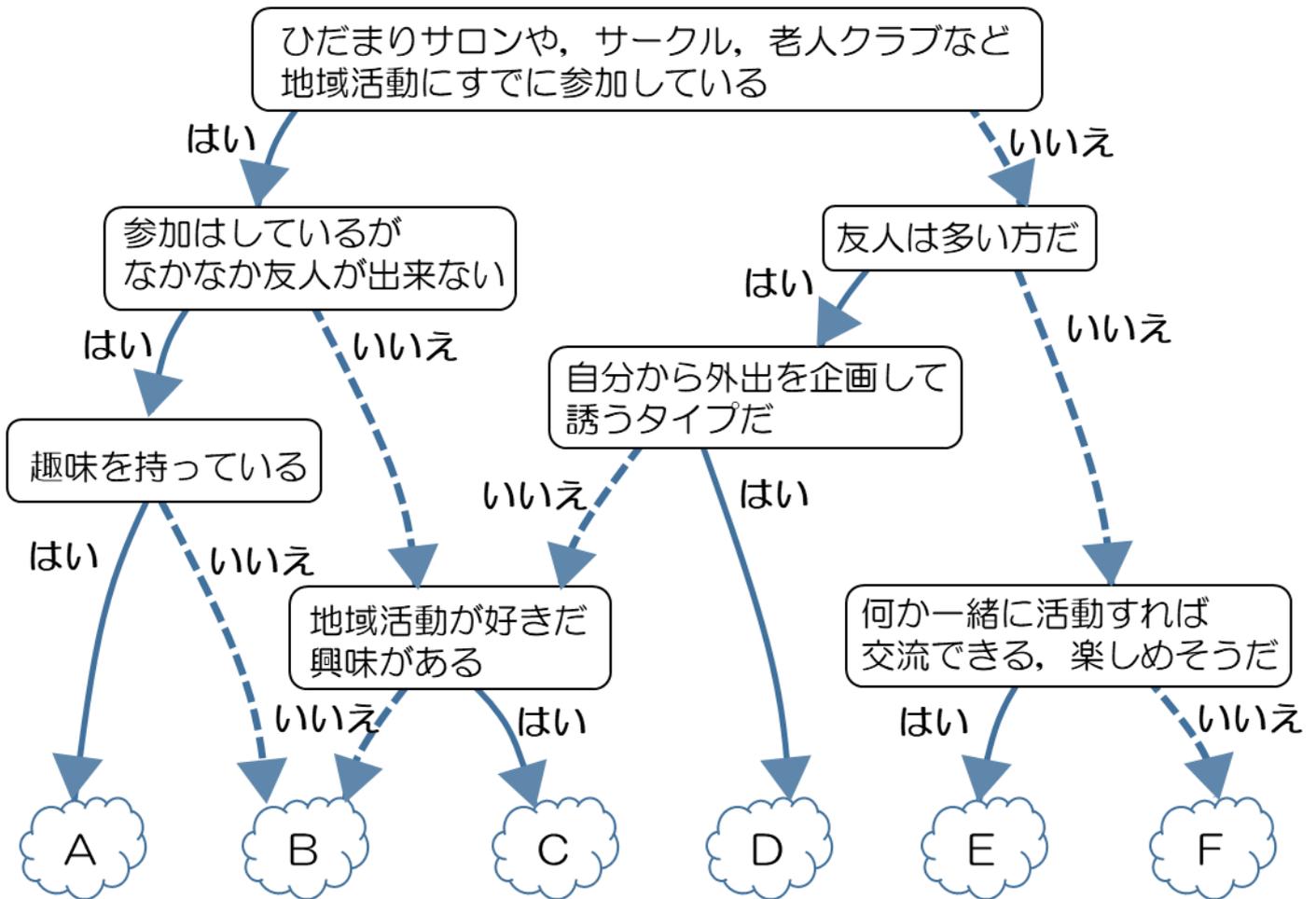
| | 開催回数 | 参加 延人数 | 活動内容 |
|-----------|------|-----------|---------------------|
| 緑ヶ丘・滝坂 | 19 | 116 | コミプロつつじ、ネットスマホを楽しむ会 |
| 北ノ台・深大寺 | 13 | 104 | ふれあいサロン、バス会議 |
| 染地・杉森・布田 | 30 | 249 | たまの手 |
| 石原・第三・飛田給 | 5 | 11 | スマホ活用 |
| 合 計 | 67 | 480 | |

普及啓発 開催回数

| | 開催回数 | 参加 延人数 | 活動内容 |
|-----------|------|-----------|-------------------|
| 緑ヶ丘・滝坂 | 2 | 25 | セカンドライブ講演会、フォーラム |
| 北ノ台・深大寺 | 2 | 30 | 脳トレ体操、CDC 健康教室 PR |
| 染地・杉森・布田 | 5 | 45 | CDC 説明会 |
| 石原・第三・飛田給 | 4 | 50 | スマホ講座、10筋体操 |
| 合 計 | 13 | 150 | |

【試してみよう】

あなたは、どの縁からはじめますか？



A:趣味のスキルを活かしてボランティアをしませんか。

B:将来のライフプランを考えると今以上にやりたいことが見えてくるかもしれません。一緒に考えてみませんか。

C:たくさんの地域活動に参加すると楽しみを増やせるかも。他のグループと交流してみませんか。

D:あなたがやりたい活動を実現してみませんか。

E:体力づくりや介護予防に体操をしてみませんか。

F:まずは、近所のウォーキングから始めてみませんか。ご近所への“あいさつ”から顔見知りが増えていきます。

【困ったときは】



●地域包括支援センター連絡先

| 名称 | 電話番号 | 所在地 |
|--------|-------------------|------------------|
| つつじヶ丘 | ☎ 03 (5315) 5400 | 東つつじヶ丘1-5-2 |
| 仙川 | ☎ 03 (5314) 0030 | 若葉町2-22-2 1階 |
| 至誠しばさき | ☎ 042 (488) 1300 | 柴崎1-6-8 鴨志田荘2-1F |
| はなみずき | ☎ 042 (441) 5763 | 深大寺北町4-17-7 |
| ゆうあい | ☎ 042 (481) 4973 | 国領町3-8-15-5-109 |
| サブセンター | ☎ 042 (484) 8011 | 八雲台1-22-1 1階 |
| ときわぎ国領 | ☎ 050 (5540) 0860 | 国領町7-32-2-101 |
| ちょうふ花園 | ☎ 042 (484) 2285 | 小島町2-45-22 1階 |
| ちょうふの里 | ☎ 042 (441) 6655 | 西町290-5 |
| サブセンター | ☎ 042 (444) 5151 | 上石原3-54-2 |

●地域包括支援センターとは

高齢者のご家族のための総合相談窓口です。介護予防をはじめ様々なサービスの利用や、虐待の早期発見・防止など、高齢者に関する総合的な相談をお受けします。相談・支援には、社会福祉士、保健師及び主任ケアマネジャーなどが担当します。また、最近ご近所の方の様子が変だなといった時にも、地域包括支援センターにご連絡ください。

●第2層地域支え合い推進員が令和4年度から6名になりました。

| 福祉圏域 | 担当者 | 担当地域一覧 |
|------------------------|--|--|
| 緑ヶ丘・滝坂 小学校地域 |  高杉 友美 | 仙川町1～3丁目, 緑ヶ丘1丁目・2丁目, 菊野台1丁目の一部, 東つつじヶ丘1～2丁目・3丁目の一部, 西つつじヶ丘1～4丁目の一部, 若葉町1丁目の一部 |
| 若葉・調和 小学校地域 |  吉田 智咲 | 東つつじヶ丘3丁目の一部, 西つつじヶ丘3・4丁目の一部, 入間町1～3丁目, 若葉町1丁目の一部・2丁目・3丁目, 国領町8丁目の一部, 菊野台1丁目の一部・2丁目・3丁目 |
| 北ノ台・深大寺 小学校地域 |  浜口 絵美 | 深大寺北町1～7丁目, 佐須町1丁目の一部, 深大寺元町2丁目の一部・3～5丁目, 深大寺東町1丁目・2丁目的一部分・5～8丁目, 深大寺南町1～3丁目的一部分・4丁目・5丁目的一部分 |
| 第二・八雲台・ 国領 小学校地域 |  矢田 千絵 | 佐須町3丁目的一部分, 調布ヶ丘2丁目・3丁目的一部分, 八雲台1丁目・2丁目, 国領町1～5丁目, 8丁目的一部分, 布田2丁目・3丁目 |
| 染地・杉森・ 布田 小学校地域 |  北島 正也 | 国領町6～7丁目, 染地1～3丁目, 布田5～6丁目, 多摩川6～7丁目 |
| 第三・石原・ 飛田給 小学校地域 |  佐藤 歩 | 飛田給1～3丁目, 上石原1～3丁目, 富士見町1丁目・2丁目的一部分・3～4丁目, 下石原1～3丁目的一部分, 野水1丁目・2丁目, 西町 |

※上記地域以外もご相談等, 受付しております。

問い合わせ先: 調布市社会福祉協議会 地域支援担当

調布市小島町2-47-1 総合福祉センター内

電話: 042-481-7693 FAX: 042-481-5115

メール: chofu-co@ccsw.or.jp

セカンドライフ応援キャンペーンに関するお問い合わせ

問い合わせ先: 調布市福祉健康部高齢者支援室 地域包括ケア推進係

調布市小島町2-35-1

電話: 042-481-7150 FAX: 042-481-4288

メール: kourei@w2.city.chofu.tokyo.jp

令和3年度

調布市生活支援体制整備事業報告書

(地域支え合い推進員活動報告書)

発行日 令和4年8月

| |
|-------|
| 刊行物番号 |
|-------|

| |
|----------|
| 2022-102 |
|----------|

発行 調布市福祉健康部 高齢者支援室

社会福祉法人 調布市社会福祉協議会

編集 調布市福祉健康部 高齢者支援室

〒182-8511 調布市小島町 2-35-1

(電話) 042-481-7150 (直通)

(ファクス) 042-481-4288

(URL) <http://www.city.chofu.tokyo.jp/>
